

青山城〈前編〉

《吉田町常友》

シリーズ「お城拝見！」第五十九回

安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 秋本哲治

編集後記

今年には芸備線開通百周年、戦後70年を迎え節目となる年です。これから「広報あきたかた」では、関連する特集や話題を取り上げていきたいと考えています。市民の皆様から情報提供や取材のご協力をいただくこととなりますので、よろしく願います。(原田)

5月に入り田んぼに水が入ると聞こえてくる蛙の大合唱。私はこの蛙の大合唱が好きで、聞きながら寝ると安心して夜寝ることができます。稲が育ち田の水がなくなるまで、しっかり蛙の歌声を楽しみたいと思います。(田村)

今月の表紙

市教育委員会では、甲立古墳から出土した埴輪群の中から、特に保存状態の良い2号家形埴輪をほぼ完全な形に復元し、現在、市歴史民俗博物館で展示をしています(6月28日(日)まで)。復元された埴輪を、博物館に訪れた子どもたちが興味深そうに眺めています。

立地：吉田盆地の南西、国道に沿って長く伸びる山が青山です。山頂から多治比川を越えて郡山城へは約2km。谷を隔てて隣り合う光井山城と併せて青光井山城と呼ばれますが、本来別の山です。比較的なだらかな山ですが、東側には可愛川が流れ、郡山方面と福原・桂方面との両側を監視できる要衝にあります。

歴史：天文9(1540)年9月、郡山合戦時に風越山城の本陣にいた尼子軍が移動し、光井山城(第19・20回)とともに布陣した臨時的な城(陣城)として知られます。このとき総大将であった尼子詮久(晴久)は、風越山に残ったのか青山・光井山に移ったのかは不明です。10月11日、尼子勢が吉田郷内に出撃した際、元就勢が出撃してこれを攻め、「青山の構」え際に追いつきました。この青山の構えが青山城のことです。12月に大内氏から陶隆房率いる援軍が到着し、こう着状態となりましたが、翌年1月13日、大内軍が青山と光井山に攻撃を仕掛け、尼子軍は壊滅し敗走しました。以後、青山城が使用された記録はありません。

考察：尼子軍の数は元就の記録では3万とありますが、これは誇張されたものといわれており、実際はその半分にも満たなかったと思われる。そうすると尼子軍は風越山城、宮崎城、光井山城そして青山城に分散していたため、青山城の軍勢は多くても5千〜6千程度ではなかったかと推察されます。



青山城遠望(北側より撮影)



周辺位置図



尾根上に残る土塁と堀切



細く長く伸びる郭(東側より撮影)

NO.136
6
2015.JUN

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5612 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/

人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」

Akitakata

これ、なあ〜に?



(今月の主な内容)
2〜3
安芸高田の新たな宝 甲立古墳
4〜8
平成27年度安芸高田市の仕事目標
平成26年度仕事目標の成果